

# 自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道札幌北高等学校(定時制)
-----	-----------------

## (1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年12月20日(水)	研修参加人数	9人
研修内容	<p>講師 医療法人トルチェ 氏家こどもクリニック 医師 氏家 武 氏</p> <p>目的 発達障がい理解と学校での対応の注意点と医療機関との連携方法について理解を深める。</p> <p>テーマ 「発達障害グレーゾーンの子どもたちに必要な支援とは何か?—児童精神医学の観点から」について</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校において「社会的コミュニケーションの障害」を感じさせる生徒が増えつつある。対人関係が困難で、コミュニケーションが苦手で、集団の中に入っていけない。</li> <li>学校としてそういう生徒達への対処などをどうしたら良いのか</li> <li>発達障害とは</li> <li>自閉スペクトラム症とグレーゾーン (GZ) の子どもに対する支援のあり方</li> </ul>		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害(神経発達症群)についての詳細や、障害はその程度が軽ければ軽いほど平均的発達との線引きが難しく、障害なのか個性なのか判然としないことなどを分かりやすく説明してくださり、今までの知識の確認をしたり、新たな知識を得ることができました。</li> <li>それぞれの障がいの特性、具体的な対処法、関わり方、環境整備などについて適切なアドバイスをいただきました。短い時間の中で、内容の濃い、収穫の多い研修会となり、今後も連携していただけるとお聞きし、とても心強い気持ちになりました。</li> </ul>		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害グレーゾーンの子どもたちに必要な支援とは何か(北海道北高校定時制職員研修会 20231220) 資料</li> </ul>		



## (2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)
A 援助希求的 態度の 育成	<p>○ 実践の概要(目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力の確立を目指し、総合的な探究の時間の授業において、スクールカウンセラーによる講話を実施し、様々な相談ができる大人の一人として、本校にもスクールカウンセラーがいることを理解することができた。</li> </ul> <p>○ 生徒の変容を促す工夫(授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身がコミュニケーション能力を向上させることを目的に、相手に対してうまく自分の考えや意見、気持ちを伝えるためにはどのような伝え方がよいか、プリントを使って説明した。</li> </ul> <p>○ 生徒の変容(アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域には様々な相談先があることを理解させるために、資料を作成して生徒に配布し、相談の内容によっては専門家に相談することを勧めた。そのことにより生徒自身に安心感が増した。</li> </ul> <p>○ 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力に対する正しい知識を身に付け対処し、心の持ち方をコントロールすることで、対応力が変化していくことがわかった。コミュニケーション力が向上し、今後の学校生活へのやる気を高めることができることがわかった。</li> </ul>



<p><b>B</b> 早期の問題認識 (心の健康)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の時間を利用し、スクールカウンセラーによる講話を実施し、自殺の予防には、お互いの支え合いが必要であることを意識させた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の心身の状態を知り、不調になった時に誰かに相談することの大切さについて考えさせた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な教育活動を通じて、小さくてもよいからできることを探し、成功体験を積むことで自己肯定感を高め、自信につなげられることを理解した。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「死にたいという人は実際には死なない」は嘘であるって事がはじめて知りました。あと、「3人試す法則」もはじめて知りました。心の黄信号も覚えていたら今後に役にたてそうだなと思いました。これからは沢山の交流やコミュニケーションを大切にしていきたいです。</li> <li>・自分の中のイヤな気持ちをためたりせずに、できるだけ周りの人に話していきたい。少しでもさみしそうにしている人がいたら、声をかけたいです。</li> </ul> </li> </ul>
--	---

<p><b>C</b> ストレス対処能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間を利用し、外部講師による講演を実施し、幸福度を高める発想法について学んだ。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「心と身体のチェックリスト」の結果を活用して面談を行い、ストレスへの対処方法について理解を深めさせることができた。欠席や早退も少なく、平常に学校生活を送っている生徒の中に、高ストレスを示した者もあり、早期の面談で生徒理解を一層深めることができた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の生活に生かされる感想が多く寄せられた。</li> </ul> </li> <li>○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の心の持ち方をコントロールすることや見方を変えてみることで、自分の考え方や生き方が変化し、幸福度が上がることがわかりました。</li> <li>・前向きな考え方を身に付け、マイナスの方向性をプラスの言葉に変えることで、幸福度へのスイッチに切り替わられるということを知り、これからプラスの言葉をもっと使おうと思いました。</li> </ul> </li> </ul>
---------------------------------	---